

第8回 支店長のわがまち紹介

茨城県かすみがうら市

「湖山の宝」 四季おりおりの湖と山の恵みを活かす



かすみがうらエンデューロ 写真提供：かすみがうら市

茨城県内の44の市町村を、それぞれにゆかりのある筑波銀行の支店長がご紹介します。第8回目は、かすみがうら市です。筑波銀行は、“地域復興支援プロジェクト『あゆみ』”に基づき、各自治体との連携を深め、関連強化と信頼関係醸成を進めるため、平成26年3月現在、9つの自治体より、指定金融機関の指定を受けています。かすみがうら市には、昭和53年9月1日（当時は千代田村）より指定金融機関の指定を受託しました。

千代田支店長の山田孝行が、かすみがうら市 副市長 石川真澄氏、環境経済部観光商工課 課長 山野繁明氏、課長補佐 齊藤健氏、主任 石川将己氏にお話を伺いました。

●かすみがうら市が一番と考えていること、自慢できることはなんですか。

かすみがうら市は、湖と山に抱かれた風光に恵まれた土地で、風と水の力が織りなす「帆引き船」、全国に誇る農産物、里山や湖に飛来する多種多様な野鳥などが、この豊かな自然を象徴しています。

帆引き船は、明治13年に旧霞ヶ浦町出身の折本良平が発明した霞ヶ浦でしか見ることのできない唯一無二の貴重な遺産であり、この白帆が放つ魅力を未来に語り継ごうと、地域ぐるみの活動が進められています。

平成25年度で13回を迎える「霞ヶ浦帆引き船フォトコンテスト」は、市民団体による先駆的な取組みで、回を重ねるごとに技術的・芸術的にも評価が高まり、約500作品もの応募が寄せられ、帆引き船と霞ヶ浦の新たな美観を鑑賞することができます。また、平成25年夏には市民有志によって帆引き船操業継承部が立ち上がり、喫緊の課題である操船者高齢化対策に弾みをつける体制が整いつつあります。帆引き船の魅力は、画期的な漁法のみならず、広大な霞ヶ浦を我がものとするばかりに白帆を掲げ堂々と進む勇壮な姿です。7月～11月の日曜日に実施している観光帆引き船の見

学船への乗船者が年々増え続け、関心を集めていることは、運営する我々にとっても励みとなりますし、この伝統漁法を保全しようとする地域の想いをも後押ししてくれています。



観光果樹園 いちご狩り 写真提供：かすみがうら市

観光産業を代表する資源に「観光果樹園」があります。東日本大震災による原発事故の影響を大きく受けてきた果物狩りですが、風評被害を払拭する取組みが功を奏して来園者数が完全に回復しました。平成25年度は約18万人が訪れ、被災前をも上回る賑わいぶりです。観光果樹園は、冬から春はいちご、夏はブルーベリー、秋は梨、ぶどう、柿、栗と四季を通じて楽しめます。これは全国的にもめずらしいことです。今後も「果樹のふるさと」として、新鮮で安全な旬の恵みを引き続きアピールして、元気な果物産地を応援していきます。

●筑波銀行との関わりの中かで得られた成果、期待することについてお聞かせください。

かすみがうら市の主要観光イベントに対して、



石川副市長



山野課長



齊藤課長補佐



石川主任



山田支店長

地域復興支援プロジェクト『あゆみ』によるご支援をいただきました。人的面に加え、経済的な協賛のお陰で、平成25年は8月の「あゆみ祭り」、10月の「かすみがうらエンデューロ」、11月の「かすみがうら祭」すべて大盛況のうちに終えることができました。

かすみがうらエンデューロは、全区間公道コースを占用して開催する自転車耐久レースで、平成24年10月に初開催した新しい観光交流企画です。25年大会は、参加者の半数以上が茨城県外から来てくれました。スポーツ振興を超えて、観光交流人口の拡大を目指すことに主眼を置く事業趣旨から、如何にしてリピートに繋がる対策を講じられるかがカギとなります。そのような態勢を充実させていくうえで、現場におけるスタッフ個々の対応と判断は重要となり、エントリー受付や案内に協力いただいた筑波銀行の行員の皆さんの懇切丁寧な対応は素晴らしく、アンケートでも高く評価されました。本大会の継続開催はもちろんですが、地域にとってこの大会が意義深いものでなければなりません。一過的な集客イベントに留めるのではなく、本大会を主軸にしながら、他のサイクル企画も検討して枝葉を広げていきたいと考えています。

また、エンデューロに限らず種々の地域振興政策において、地場資源を最大限に活用することはもちろんのこと、地元の企業や事業者との連携による活動形態を構築していきたいと考えています。ご当地料理を起爆剤とした地域ブランディングが全国各地で取り組まれています。



霞ヶ浦帆引き船 写真提供：かすみがうら市

の活性化は地域振興に密接で、地産地消とおもてなしサービスの礎となります。現在、

市内飲食店13店舗が「かすみがうら市おもてなし料理の店」に協賛し、観光案内のほか地域に根ざした経営・運営に協力いただいています。おもてなし料理メニューも各店舗に独自の工夫がなされ、来店客に温かい地域性を感じてもらおうとする心意気で接客いただいています。外食産業の動向は地域経済伸張のバロメーターともなり得るものです。このような店舗ネットワークを継続・拡充していきますので、筑波銀行には経営者のパートナーとして、外食産業や地場産業活性化のための継続的なサポートに期待しています。

●今後の展望についてお話しください。

森林交流拠点である雪入ふれあいの里や果樹振興地域、水辺交流拠点である歩崎周辺での観光交流の促進を基本として、ヒューマンスケールで楽しめる体験を、ここならではの印象付けられる空間にしていきます。特に歩崎公園には観光スポットが点在し、親水交流空間としてのポテンシャルが高い条件が整っています。また、霞ヶ浦での漁業や養殖業、沿岸での農業が盛んな地域でもあり、観光産業と農水産業振興との両輪による活性化に期待できます。平成26年度は、この強みを活かす空間形成に向けた交流施設の整備に着工し、霞ヶ浦観光の中継基地として豊富な産物とアクティビティを提供できる環境を整えていきます。

さらに、市推奨の「湖山の宝」認定商品（やきいも焼酎、ブルーベリーガレット等19品目）の普及はもとより、地域の宝である観光資源や、そこに携わるマンパワーを活かして、公益の見地から地域ブランド「湖山の宝」に係る観光サービスを充実させ、来訪者や消費者へのメリットを明確に訴求できるよう観光交流プロモーションに注力していきます。具体的には、かすみがうら市の魅力を伝える映像を作製し、ポータルサイト等を通じて多角的に発信することで攻めのプロモーションを実施していきます。

(文責：筑波総研株式会社 主任研究員 國安陽子)